

【神奈川】神奈川県トラック協会（吉田修一会長）では、執行部の一層の若返りと運営の活性化に向け、定款変更により2022年度から副会長を増員して対応している。6月に新たに就任した東海林憲彦副会長（54、萬運輸）に、抱負などを聞いた。（吉田英行）

神ト協副会長
東海林 憲彦氏

—青年部会長、理事、総務企画委員長などを経て副会長に昇格した。新型コロナウイルス禍で、エッセンシャルワーカーとしてのトラック事業者を束ねるトラック協会は平時とは異なる動きをしており、集まる情報量、対応すべき事項は非常に多い。課題に迅速に対応するため副会長増員の必要があった

と理解している。

また、吉田会長は初の青年部会出身会長として執行部の若返りを実現したが、今後の一層の若返りに向けて次世代への橋渡しも必要。そのリレーの位置付けとしても自分は必要とされたと考えている。業界活動に積極的な若手人材をクロ



の補修だけでなく、災害拠点として健全に機能するとともに、国際社会の共通目標である環境対策、SDGs（持続可能な開発目標）

若手人材育成に注力

ーズアップし、育て、引き上げていくために力を注ぎたい。

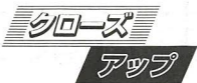
—副会長として総務企画委員会を担当し、トラック総合会館の大規模修繕を担当する特別委員会

の副委員長も務める。トラック協会という器が、今後より機能的に役割を果たし会員に貢献する

にも対応した施設に更新することを目指す。副委員長としてしっかりサポートしていく。設備の更新に加え、組織の機能強化も求められる。

DX・SDGs 組織機能を強化

トラック協会が更に機能的に動くための組織づくりも欠かせない。例えば、災害時に県の要請に基づき、



事務局職員から業界のことで多く学んだ。職員にはこれからのDX（デジタルトランスフォーメーション）、SDGsへの対応などについて共に考え、会員をけん引する知恵袋になって欲しい。職員の執務環境改善、スキルアップのサポートを視野に入れている。時代に即した事務局の進化こそが会員のためになる。

これまでの事務局の進化が重要。自分は若い頃、円滑に緊急物資輸送に対応する仕組みの整備が急務だ。このためには事務局の進歩が重要。自分は今、限りは、期待を裏切らないようミッション達成に向けて努めていく。